

「債権法改正」の文脈

——新旧両規定の架橋のために

森田 修

2020年10月発売 / 812頁 / 本体11000円+税
A5判 / 上製



編集
担当者
から

本書は、3年にわたって本誌に掲載された同名の連載に加筆修正し、新たに第13章・債権譲渡を書きおろして、1冊にまとめたものです。

重要論点ごとに、新規定が、従来の判例・学説の展開の中でどう位置づけられるのか、および、法制審でどのような審議経過を経て最終法文に至ったかが検討され、従来の議論との承継関係の中で新規定が系譜的に位置づけられています。そして、改正後の条文がどのような趣旨のものとして成立したかが確定されており、今後の解釈論にとっての重要な基礎資料として提示されます。

「いかなる立法も白地には為されない。故に旧法の正確な認識なしには新法の意味は理解できず、逆に新法の構造は、旧法下の議論の意味を集約的に表現する。民法典旧規定についての認識もまた、新規定解釈への武装に転化可能といえよう。」(本書13頁より)

これから新条文をもとに解釈論を展開していく研究者・実務家、特に旧規定について既に一定の知見を持つ読者にとって、本書がそのための自由な視点を拓く一助になるものと信じます。

単行本化にあたっては、資料としての活用を考えて、相互リファアーを細かく付したほか、商事法務編『民法(債権関係)部会資料集』などの参照も容易になるよう対応箇所を示しています。索引も充実の内容となっています。ぜひご活用ください。(渡邊)

Index



解釈論のための自由な視点を拓くために

- 序 章 はじめに
- 第1章 錯 誤——要件論の基本構造を中心に
- 第2章 契約の解釈——一般準則を中心に
- 第3章 約款規制——制度の基本構造を中心に
- 第4章 意思表示制度——契約締結過程規制の拡張と第三者保護規定の整備
- 第5章 代理制度——法律行為論への再定位
- 第6章 履行請求権——契約責任の体系との関係で
- 第7章 債務不履行賠償の要件論——帰責事由論を中心に
- 第8章 売主の担保責任——一般債務不履行との関係を中心に
- 第9章 損害賠償の範囲——「予見すべき損害」論の展開を中心に
- 第10章 解除と危険負担——要件論を中心に
- 第11章 詐害行為取消権——基本構造の連続と不連続
- 第12章 相 殺——担保的機能を中心に
- 第13章 債権譲渡——資産流動化と対抗原理
- 結 章 結びにかえて

※小社ウェブサイトの本書のページもご覧ください。

